

# SECTION 1 基礎編

## ① 基本動詞をマスターする

英文を理解したり、書いたりするとき「核」になるのは「動詞」です。それは、文の中で一番大切な「主語の動作や状態を表す言葉」が動詞だからです。また、動詞を変化させることで動作の状態やその状態がいつ起きたのか、などを表すこともできます。

このように、英作文の上達には、動詞を自由に使いこなせることが第1条件です。ここでは、高校入試の英作文において、特に使いみちのある動詞を学びます。

### ポイント 1

#### ■動詞の種類と特徴

1. 英語の動詞には次の2種類があります。
  - ① **be 動詞** …主語の状態などを表します。  
(is, am, are, was, were, be, been)
  - ② **一般動詞** …主語の動作を表します。  
(read, like, speak, have など)
2. 英語の動詞(特にここで扱う基本動詞)は日本語と違い、1つの動詞がいろいろな意味や用法を持ちます。  
【例】take … (手に)取る, 受け取る, (乗り物に)乗る, など。

### 演習 1

次の空所にあてはまる動詞を書きなさい。

1. 私はロック音楽が好きです。  
I ( ) rock music.
2. 私は新しい自転車が欲しい。  
I ( ) a new bike.
3. あなたは日本語を話すことができますか。  
Can you ( ) Japanese ?
4. 私たちはこの教室を毎日使います。  
We ( ) this classroom every day.
5. 私は英語で手紙を書くことができます。  
I can ( ) letters in English.
6. 私を手伝ってください。  
Please ( ) me.
7. 私にあなたの電話番号を教えてください。  
Please ( ) me your phone number.
8. ブラウン先生はカナダの出身です。  
Mr. Brown ( ) from Canada.

16. 英語の授業の時間に配られたプリントに、次のような英文がありました。この英文の中で述べられているお母さんの意見について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えを、「賛成」、「反対」のいずれかの立場に立って、5文以上の英語で書きなさい。(岐阜)

When I was reading a comic book in my room, my mother came and said, "Stop reading the comic book." She said, "Comic books are only for little children. You are not a little boy. How about reading some books without pictures?" Do you agree with my mother?

**ヒント** まずは、I agree か I disagree (I don't agree) で書き出し、自分の立場をはっきりさせよう。自分独自の文章が考えられなかったら、文中のお母さんの意見を借りてみるのも1つの方法であろう。例えば、Comic books are only for little children の文頭に、I don't think をつければ自分の意見になる。また some books without pictures の前に、I will read を置けば、自分の意思を表す文になる。

答え

---

---

---

---

---

## 達人の裏ワザ 3

### ●短い文で書く

接続詞や関係代名詞を使えばかなり長い文を書くことができます。しかし時間の限られた実際の入試でそのような長い文を書こうとすると、どこかに文法的な不備が出てきてしまうものです。わざわざそんな危険を冒す必要はありません。それより、短い文をいくつか書いたほうが安全です。入試では、文が10語以上になりそうな場合は、たいてい「2文以上でもよい」というただし書きがついています。

#### ① 今年の夏休みの思い出を書きなさい。

- ・あなたの気持ち…家族で北海道に行ったときは、行きは飛行機で、帰りは船だった。北海道ではおいしいものをたくさん食べた。
- ・実際に書くこと…家族といっしょに飛行機で北海道に行った。そこでたくさんの種類の食べ物を食べた。とてもおいしかった。

#### ② スポーツから学ぶこと

- ・あなたの気持ち…スポーツでは1人がミスをした時に、みんなでそれをカバーする、いわゆるチームワークが大切である。
- ・実際に書くこと…ゲームの中では多くのトラブルが発生する。そのとき、お互いに助け合うことが大切である。